

編集後記

- 今回の「人間福祉研究」第13号の発行を、なんとか年度末最終日に間に合わせることができました。皆様には相変わらず動きの遅い編集委員にお付き合いいただきましたこと、心から感謝する次第です。
- 人間福祉学会で開催した宇土博先生の退任記念講演では、宇土先生が現在取り組んでおられる新経絡治療についてお話いただきました。貴重な資料や事例を数多くご紹介いただき、そのあくなき探究心は多くの学生や卒業生、教員にとって刺激となりました。本号に、当日の講演内容をまとめたものを掲載するとともに、宇土先生から研究論文をご寄稿いただきました。心より感謝申し上げます。
- 今年度は初めての試みとして、「島根ブロック大会」を11月8日（土）、9日（日）の両日に島根県出雲市で開催しました。大会は四部構成で、第一部は「基調講演」、第二部は「実践フォーラム」、第三部は「情報交換会」、第四部は「大会総括」というものでした。「基調講演」には、島根県福祉教育推進協議会 副委員長、社会福祉法人可部大文字会 老人福祉施設 山まゆ統括室長の田原秀樹氏をお迎えし、『「島根の明日は、わたし達の手で」～ストレングスの視点で考える～』というテーマで、人口統計の可視化、福祉教育への取り組みの実際、地域包括ケアシステム構築の必要性など、島根県の現状や課題を中心にお話いただきました。「実践フォーラム」と「情報交換会」では、卒業後の進路や、島根の福祉現場（地域性と福祉専門職のあり方、福祉の現状と課題など）について、先輩から後輩へのアドバイスを頂いたり、後輩から先輩への悩みを相談したりといった形で、多分野・多世代にわたって卒業生が交流する場となりました。また、平成27年4月より島根県内に就職することが決まっている在学学生2名も参加し、先輩からの心強い励ましをいただきました。卒業後、互いが文教出身であることを知らないまま交流していたり、あるいは、専門職として強固な連携を築きながら活躍しておられたりすることがわかりました。地域の中でお互いに理解、相談し合える仲間がいることを再確認し、参加者の皆さんは大いに安心し、勇気づけられたのではないのでしょうか。そして何よりも私たち教員がとても元気になりました。この島根ブロック大会の様子も本号に掲載しております。
- 本号では、初等教育学科の徳本先生、人間福祉学科からは、菅井先生からご投稿いただいております。昨年に引き続き、現在学科で行っている調査研究の第2報も寄せられました。ご投稿いただいた皆様には心より感謝いたします。今回は間に合いませんでしたが、次号以降に土砂災害の復興支援の報告を掲載する予定です。また、例年通り卒業研究論題一覧も掲載しております。これら学部生の指導にあられた先生方のご尽力に、心より敬意を表します。卒業生の皆様には論題に目を通していただき、現在の学生が興味をもっていることや社会福祉の今日的課題に触れるきっかけとしていただければと思っています。
- 今回は、本学開催と島根県開催の2回の人間福祉学会の様子を掲載することができました。今後も、人間福祉学会が在学学生と卒業生、教員の情報交換および交流の場として、互いに刺激を与え、成長し合える場であるのと同様に、学会誌上における互いの情報交換や交流、切磋琢磨を進めていきたいと考えております。皆様に無理なお願いをすることもありますが、変わらずご協力いただきますよう心よりお願いいたします。

広島文教女子大学 人間福祉学会

『人間福祉研究』第12号編集委員（溝渕 淳 太原 牧絵）